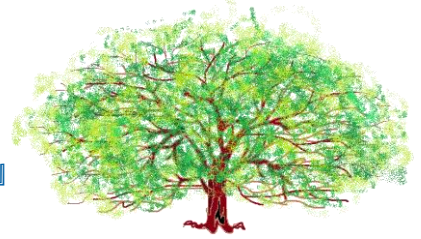


「589とおりの げんき をたし算しよう・・・」



「6年生は運動会の組体操の練習で今がんばっています。みなさんもがんばりましょう。『お早うございます。』(おはようございます。)

今日は『589通りの元気をたし算をしよう』という話をします。

いよいよ運動会も近づいて、1年生も2年生も、3年生も4年生も5年生も、そして今挨拶のなかでおはなしをしてくれた6年生も、みんなみんな、どの学年も力を合わせて練習が始まりましたね。この、1年、2年、3年、4年、5年、6年の全員を合わせると589人になります。

一人一人がせいっぱい自分の得意な力を出して、そして、力を合わせて……。団体競技や表現運動など、一つのことをみんなで心を一つにして励ましあいながら頑張る。みんなの力で、自分の役割やできることを精いっぱいやって、みんなの力で成功させる。素晴らしいことだと思うのです。

いつも話している「元気に、なかよくそして、楽しく」、まさにその通り、お互いにけがをせず、相手のことを思いやって、一つのことをやり遂げる楽しさ。素晴らしいことです。

6年生が組体操の練習を始めました。ピラミッドやタワー、みんながそれぞれの役割を我慢してやり遂げてはじめてうまくいきます。タワーやピラミッドなどの土台の役割の人は重くて痛くて大変です。上に乗る人も下の人たちが頑張っているから何とか組み立てていけるのです。始めのうちは「痛いなあもっとうまく乗ってよ」とか、「だって、〇〇くんが……………」とか、ついつい人の性にもしがちです。

でも、だれか一人が気を抜いたりふざけてしまうと途端に失敗したりけがにもつながります。だから自然と「だいじょうぶ?」「痛くない?」「ありがとう。」という、相手を思いやる言葉になっているのがとっても嬉しいのです。

他の学年の人たちもそうですね。お互いに助け合って、励ましの言葉をかけ合っはじめてみんなの力が「たし算」になります。「〇〇ちゃんが…。」と言っているうちは、これは「ひき算」ですね。

ちょっと違う話になりますが、わたしは毎朝、近くの駅まで自転車でいきます。その時、途中で短いけれどとっても急な坂が一か所あります。普段は何とか自転車に乗ったままどっこらしょっと登っていますが、元気の無い時は降りて登るような坂です。その場所で時々お掃除をしてくれているおばあさんに会います。八十過ぎのおばあさんでしょうか、腰が曲がって歩くのも大変そうなのですが、それでも元気にお掃除しています。

この坂を私が上っていると、そのおばあさんが自転車をこぐのに合わせて掛け声をかけてくれるのです。「よいしょ。よいしょ。よいしょ。がんばれ。」「よいしょ。よいしょ。がんばれ。よいしょ。」「……………」

はじめは、「このおばあさん、なに独りごといってるんだろう。」と思って振り向いてしまいました。でも二度目の時、応援してくれているのがわかりました。この声を

聞くと元気が出ます。今はもうお会いできないのですが、その頃は、何だかこのおばあさんに会えるのを心待ちにするようになりました。

人を応援する心。人を思いやる心。素晴らしいですね。

でも、こんな声も聞こえてきます。「どうせぼくなんか。」「でも〇〇くんが・・・。」「僕だけじゃないよ。〇〇だって。」どうせ、でも、だって。人のせいにしていいわけしてしまう「ひき算」言葉があふれます。

運動会までに、「だいじょうぶ・・・?」「よいしょよいしょ、がんばれ・・・。」という「たし算」の言葉と心で桃五小をいっぱいになりたいですね。

それが、みんなと仲良くする方法、力を合わせる方法なのだと、思います。

運動会、がんばれ、がんばれ、ももご、がんばれ・・・・・・・・・・。

お話終わります。

